



## 「友だちとは？」

もうすぐ1学期が終了します。この間、1年生は新クラスや部活動で異なる3つの小学校から入学してきた仲間と3カ月間を一緒に生活してきました。300名を超える同級生がいる2・3年生にとっても、初めて同じクラスになった人もいることでしょう。

仲間と良好な人間関係を築いてほしいと願っていますが、生徒間トラブルの話がときどき職員室に届きます。もしかすると、トラブルにまで発展していなくても、新しく出会った仲間や以前から知っている仲間との人間関係で、悩んでいる人がいるかもしれません。中学生のときは、友だちとの関係に敏感な年頃です。他者に嫌われずに、できればお互いに好感をもち合って、仲の良い友だちになりたい、と思っている人が多いのではないのでしょうか。

友だちとのつき合いでは、他者に嫌われたくない、嫌われるのが怖い、という思いが先に立って、自分の思いとはうらはらに、人に好かれようとしたり、皆と同じようにしようとしたりして、精神的にしんどくなっている中学生に少なからず出会ってきました。

友だちとの関係で、本心を出せていない自分は、本当の自分ではないので、本当の友だちにはなれていません。本当の友だちは、長所も短所もあるのまに見せ合って、それでもお互いが認め合っている関係が築けています。だから、本当の自分を出さないうちは、本当の友達にはなれないということです。

また、人に好かれたいと思っても、相手の自分への気持ちを好転させることは、相手にしかできないことです。しかし、相手を好きになることは、自分にできることです。好かれようとするのではなく、他者の良い点を見つけて、人を好きになろうとしてください。きっと、そのようにしている人の方が周囲の目には魅力的に映っているのではないのでしょうか。

私たちは、好き嫌いという感情に縛られて友だちを見てしまいがちです。しかし、どうしても好きになれず、馬が合わない友だちが自分の所属する集団のなかにいるかもしれません。人それぞれの普通が違うので、気の合わない友だちがいても不思議ではないです。その人と無理に仲良くする必要はありませんが、決して仲間はずれにしたり、意地悪をしたり、と疎外してはいけません。たとえば、自分はニンジンが嫌いで、絶対に食べないと決めていても、ニンジンを必要としている人がいます。だから、栽培するのをやめさせて、この世界からニンジンを無くしてしまうようなことはやってはならないのです。

友人間の愛、友情などを意味する「友愛」という言葉があります。「愛」は、好きという言葉と同じような意味で私たちはとらえています。しかし、「愛」は、好き嫌いを超えたもの、それがそこに存在することを認める、受け入れる、という意味も含んでいるそうです。

他者の存在を認めて、受け入れようとするならば、「自分がされていやなことは他者にしない、言わない」という約束を守る必要があります。ここで「約束」と言ったのは、「ルール」とは少し意味が違うからです。「ルール」は守らなければなりません。守らないと罰則が与えられることもあります。しかし、「約束」は、守れないときを想定した言葉です。「やります」と言っても、三日坊主で守れないことがあります。もし、約束を破ってしまったら、破らない自分になるために「やり直し」をして頑張りたいと願っています。

「やり直す」というのは、「自分がされていやなことは他者にしない、言わない」という約束が守れなかったときに、「どうすればよかったのか」としっかり考えて、同じ失敗を繰り返さないように努力することです。どうか、すべての人の存在を認めて学校生活を送ってほしい、と切に望みます。

生徒の皆さんは、1学期を終了する前に、山陽中学校でともに生活している仲間との人間関係について、今一度、振り返って考えてみてください。